

活動報告書

報告者氏名：藤井 契 所属：大分県立竹田支援学校 記録日：平成 24 年 6 月 10 日～
平成 25 年 2 月 15 日

【対象児（群）の情報】

- ・ 学年
高等部 2 年
- ・ 障害名
知的障がいなど
- ・ 障害と困難の内容
A 児 視力が悪く、小さな文字を読むことが困難、またわからない字をごまかすように、文字を雑に書く傾向がある。
B 児 漢字の読みが困難。ひらがなは書くことができる。

【活動目的】

- ・ 当初のねらい
A 児には、わからない時は辞書を引くように担任が指導していたが、拡大できる電子辞書を導入した。また友だちとの共同作業ができるように、B 児がひらがなで記入し検索するまでを担当した。
- ・ 実施期間
(平成 24 年 9 月～平成 25 年 2 月)
委員会活動において、壁新聞作り
- ・ 実施者
藤井 契
- ・ 実施者と対象児の関係
委員会活動担当（広報委員会）

【活動内容と対象児（群）の変化】

・対象児（群）の事前の状況

A 児は辞書を引く様子が見られるが、文字が小さいために止まってしまうことが多かった。

B 児はひらがな部分だけを下書きする担当だったが、学習としての効果は疑問だった。

・活動の具体的内容

ひらがなをかける B 児が検索を担当し、みんなが考えた文でわからない漢字を、iPad に書いて検索を行った。

A 児は大きく書いた文字なら、模倣ができるので B 児が検索した文字を新聞に書き写す作業を行った。

・対象児（群）の事後の変化

A 児は iPad に拡大された文字を見ながら丁寧に漢字を書くようになった。また「次はこれを調べて」と友達との関わりも多くなった。

B 児はこれまで送り仮名などのひらがなを担当していたが、自分の役割に責任感を持つことが出来た。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

生徒が自ら取り組む姿が見られるようになり、これまで難しい漢字をさけて作成する場面が多かったが主体的に「調べる」「書く」などの活動が増えてきた。

・エビデンス（具体的数値など）

1 学期に書いた新聞と比べて、文字がきれいになった。

・その他エピソード（画像などを含めて）

A 児「この漢字調べて」

B 児「まかすとけ」

などと掛け合いながら楽しそうに新聞を書くようになった。

